



あらゆる角度からいのちの尊厳を守る生き方を

全世界を襲った新型コロナウイルス感染症は、わたしたちの日常を根底から揺るがし、あらゆる面において大きな変化をもたらしました。大阪教区が主催する今年の正義と平和全国集会も、分科会が中心になり、オンライン開催となります。

2015年、教皇フランシスコは回勅「ラウダート・シ」とともに暮らす家を大切に」において、神が創造され、わたしたちに恵みとして与えられた自然と、その中で生きるすべての人間のいのちを大切にしよう訴えました。そして2019年訪日の際、「すべてのいのちを守るため」というテーマのもとに、あらゆる人の価値と尊厳を守るように呼びかけました。この呼びかけに答え、2020年は「ラウダート・シ」特別年を、また「すべてのいのちを守るため」の特別月間を過ごし、この月間は毎年開催されます。当然の如く「すべてのいのちを守ろう」を今回のメインテーマにしました。

また、2015年の国連サミットで採択されたSDGs「持続可能な開発目標」において「誰も置き去りにしない世界を目指して No one will be left behind」という基本理念が掲げられています。わたしたちは教皇フランシスコのメッセージに励まされ、国際社会が目指そうとする方向性と心を合わせて歩みたいと思いこれをサブテーマにいたしました。

社会のさまざまな現実を学び、みことばを聴き祈り、共に分かち合い、行動につなげるというプロセスを踏みながら進められます。こどもたちをはじめ、青少年、外国籍の信徒など、多くの方の参加のもとに、あらゆる角度からいのちの尊厳を守る生き方を考えていくことにいたしましょう。



コロナ禍における大会が目指すもの

昨年初頭に始まったコロナ禍は終息を見通せず、感染拡大への対応は避けて通れない課題となりました。準備に要する時間を考え、オンライン開催を前提に全プログラムを見直すこととしました。大阪大会が目指すものは4つあります。

- * **みんなが参加する大会に。**一部の興味・関心のある人達の集まりでなく、信仰に生きようとするわたしたち誰もが加わる大会にしたい。このためにオンラインのメリットを活かしたいと思います。
- * **一人一人にとって励ましや力となる内容に。**約30の応募があった分科会では、参加者が新しく学んだことを、福音の観点から見直し、分かち合い、互いに率直に話し合うことを通して、“わたしたち自身の生き方”を問い直すものにします。全体会を省き、分科会での時間を十分にとりました。
- * **若い世代の人たちや外国籍の人、子どもたちも。**今年は子どもたち・青年・外国人向けのプログラムを準備した他、中高生たちも自分たちが考えたことを発表する場を設けました。
- * **誰も置き去りにしないこと。**今年のサブテーマですが、大会自体に、“誰も取り残さない”という姿勢を打ち出したいと思います。具体的には、近年増えつつある外国人信徒、また様々な障害のある人も参加できるようにします。

これまで経験したことのない大会となりますが、このような状況だからこそ出来ることもあると考え、皆さんの協力も仰ぎながら、実り豊かな大会にしたいと願っています。